

人間国宝認定30年 金工界で史上最長記録更新中の
匠・奥山峰石 名品約75点一挙公開!!



人間国宝

鍛金家・奥山峰石 米寿記念展

認定30年の軌跡



1



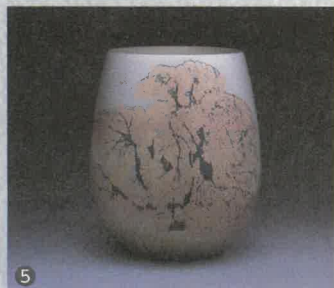
2



3



4



5



6



7



8

令和7年 8月30日(土)ー9月21日(日) 10:00~17:00
※休館日を除く ※初日は13:00~

会場：北区飛鳥山博物館2階特別展示室・講堂

東京都北区王子1-1-3
休館日：月曜日(祝日の時は火曜日)

交通：JR京浜東北線「王子駅」南口より徒歩5分、東京メトロ南北線「西ヶ原駅」より徒歩7分、
東京さくらトラム「飛鳥山停留場」より徒歩4分 ほか

【主催】奥山峰石

【共催】山形県新庄市、新庄開府400年記念事業実行委員会、東京都北区、東京都北区教育委員会、(公財)北区文化振興財団

【後援】新庄市教育委員会、新庄市芸術文化協会、東京都北区美術会、東京都北区伝統工芸保存会、
(一社)王子青色申告会、東京金銀器工業組合・伝統工芸士会 【協力】文化庁、東京都

【問合せ】東京都北区総務課総務係 ☎03-3908-8623 (平日8:30~17:00)

北区飛鳥山博物館 ☎03-3916-1133 (休館日を除く8:30~17:00)

区ホームページ▶



入場無料

奥山峰石 OKUYAMA, Hoseki

認定
30年の軌跡

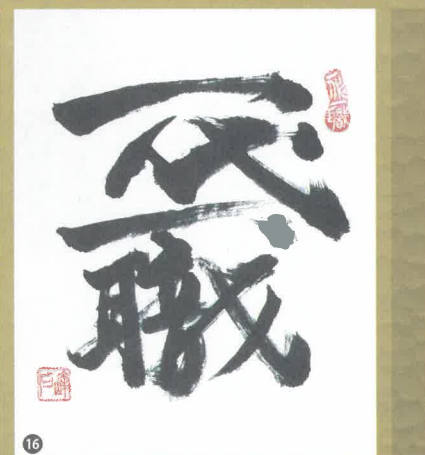
人間国宝

鍛金家・奥山峰石 米寿記念展



1937年、奥山峰石(本名・喜藏^{きぞう})は山形県最上郡萩野村泉田(現・新庄市泉田)に生まれました。15歳の時に上京し、銀製品の職人として鍛金の技術を習得後、70年以上に亘り「一代一職」という信念のもと創作活動に従事しています。1970年には活動拠点を東京都北区に移し、職人の仕事だけではなく、その技術や技法を芸術作品へと昇華していき、1995年には、重要無形文化財「鍛金」保持者(人間国宝)に認定されました。

本展では職人から鍛金作家へと歩みはじめた1977年頃制作の《一輪挿し》を48年ぶりに公開するほか、《打込象嵌花器「滝桜 深深と爛漫」》(文化庁蔵)、《切嵌象嵌牡丹文鉢》(東京都蔵)、新庄市と北区等が所蔵する名品約75点を公開し、鍛金家・奥山峰石が歩んできた軌跡を辿ります。金属が放つ優雅な光沢と美しい曲線、熟練を要する手仕事でこそ成し得る匠の技をご堪能ください。



- 表面
- ① 接合せ黄銅鉢 (はぎあわ おうどうはち)
 - ② 打込象嵌紅竹文器 (うちこみ ぞうがんとう ちくもん き)
 - ③ 切嵌象嵌鉢「春夏秋冬」 (きりばめ ぞうがんはち しゅんかしゅうとう)
 - ④ 龍銀菊文鉢 (おぼろぎん きくもんはち)
 - ⑤ 打込象嵌花器「滝桜 深深と爛漫」※文化庁蔵 (うちこみ ぞうがん か き たきざくら しんしん らんまん ※文化庁蔵)
 - ⑥ 四分一菓子器 (し ぶん いち かし き)
 - ⑦ 一輪挿し (いちりん ざし)
 - ⑧ 切嵌象嵌牡丹文鉢 (きりばめ ぞうがん ぼたんもんはち ※東京都蔵)

- 裏面
- ⑨ 打込象嵌花器「春待-2」 (うちこみ ぞうがん か き しゅんたい)
 - ⑩ 重菱文切嵌象嵌花器 (かさねひしもん きりばめ ぞうがん か き)
 - ⑪ 南鐐箔文様水指 (なんりょうはくもん ようみずさし)
 - ⑫ 黄銅鉢 (おうどうはち)
 - ⑬ 接合せ朝顔文花器 (はぎあわ あさがおもん か き はなつばき)
 - ⑭ 切嵌象嵌花器「華椿」 (きりばめ ぞうがん か き はなつばき)
 - ⑮ 接合せ打込象嵌水指「文月」 (はぎあわ うちこみ ぞうがんみずさし ぶんづき)
 - ⑯ 奥山峰石書 座右の銘「一代一職」 (おくやま せうしき いうだい いっしやく)

① 自宅工房に並ぶ工具「当て金」は1つ1つ削って成形している。

② 「当て床」に置かれた金槌、木槌。

③ 用途に合わせた多くの金槌が整然と並ぶ。